

朝霞駅南口駅前通りアメニティーロード化交通社会実験をふまえた今後の方針

平成28年3月28日

朝霞駅南口駅前通りアメニティーロード化協議会決定

- ・ 交通社会実験の結果、朝霞駅南口駅前通りの一方通行化により、通行する歩行者、自転車及び自動車にとって安全性が向上したとの高い評価を得た。歩行者及び自転車にとっては、路側帯の幅が広がりゆとりある通行空間が確保できたこと、自動車にとっては対向車がなくなったことが主な要因と考えられる。
- ・ 一方で、駅から市役所方向へ向かう自動車について、計画では市道1000号線に迂回するよう誘導することとし、案内看板等で周知に努めたものの、交通量調査の結果、市道1000号線だけでなく、市道703号線や市道1号線の交通量が増加しており、一方通行化による周辺道路への影響を抑制することについては課題が残った。
- ・ また、アンケート調査において、一方通行化によって駅前通りの賑わい・魅力はあまり変わらないという回答が最も多く、地元の駅前商店会、本町商店会では、約2割の方が賑わい・魅力が減る又は少し減ると回答した。また、集客についても、駅前商店会で約2割、本町商店会で約1割の方が集客が減る又は少し減ると回答した。このため、今回の交通社会実験では、最初に述べた通行の安全性が、商業的な賑わい・魅力や集客にそれほど効果をもたらさず、逆に悪影響を受けたとする方もおり、アメニティーロード化の本来の目的を鑑みると課題が残った。
- ・ 12月の協議会での出席者各位からのご要望を受け、今年2月に、交通社会実験の結果をふまえ、地元の商店会及び周辺住民・地権者等を対象に意見交換会を実施した。その結果、地元商店会である駅前商店会、本町商店会ともに、一方通行化よりも路線バスの迂回を希望するとの意見でまとまった。
- ・ 以上のことから、アメニティーロード化の本来の目的に鑑み、特に地元商店会のご意向をふまえ、協議会として、朝霞駅南口駅前通りにおける一方通行化の本格実施は見送ることとし、今後は路線バスを運行されているバス会社と迂回について要望・協議を行っていくこととする。

以上